

胆嚢癌診断前に胆嚢病変を指摘された患者の特徴と予後に関する後向き研究

1. 研究の対象

2012年2月～2021年1月に当院で胆嚢癌に対して診断治療を受けた方

2. 研究目的・方法

胆嚢癌は自分でわかるような症状が出にくいため、早期に診断することが難しいと知られています。また胆嚢の病気の具合を診断する場合は画像による診断のみでしか行えないため、胆嚢に病気と思われる変化が指摘されたものの胆嚢癌と確定することができず、あとから胆嚢癌として診断されることもあるのが現状です。確定的な診断が遅くなってしまった患者さんの背景や病気の特徴を理解することは、今後胆嚢癌を診断する際にとっても重要です。今回私たちは、胆嚢癌と診断される前に胆嚢に病気を疑う変化を指摘された患者さんの特徴と予後に関する研究を過去の電子カルテ情報を参考にし、今後胆嚢癌が画像による診断以外の方法でより早く確定診断ができ、治療を開始できるようにするための要因を探索します。

研究期間は病院長承認日から2023年3月31日です。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：病歴、画像所見、治療経過 等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

磐田市立総合病院 消化器内科 金子淳一

〒438-8550 磐田市大久保 512-3 TEL : 0538-38-5000